



訪問ヘルパーがいなくなる！？




台風15号、19号で被災された全国の方々に心からお見舞い申し上げます。今号でもお伝えしているように、えんとして災害時の準備は少しずつ進めてきましたが、大地震、大型台風や豪雨の対策は。「経験したことがない大型台風」と報道されていましたから、台風通過の2日前に訪問介護は一人暮らしや避難が困難な利用者を確認し、配食サービスは臨時休業を決定。当日になると近くの黒目川の水位が刻々と上がり、避難準備、次いで全員避難指示と深刻になるばかり。ケアマネジャーや訪問介護ヘルパーは安否確認はもちろん、避難所まで送った方もいました。多機能ホームまどかは、独居の利用者さんの緊急宿泊を決めました。避難勧告エリアになったので、家族も含めて5人が高台のデイホームえんに避難して一夜を過ごされました。お迎えに行った人の中には「私は大丈夫」となかなか応じてくれず、説得に小一時間かかった方もいました。幸い新座市では大きな被害はなく終わりましたが、今回の経験を踏まえて備えていきます。超高齢化の中、温暖化による災害多発、ほんとうに深刻です。

さて、要介護1、2の生活援助を『地域支援総合事業』に移す案がただいま検討されています。「短時間の研修を受けた生活援助のみのヘルパーが提供する」という案です。要支援1、2ではもう始まっているのですが、要支援の訪問サービスのみの資格で実際に働く方は皆無、人手不足の折に通常の訪問介護より低い報酬ですから、予想された事態です。

この問題も含めて、訪問介護は危機に瀕しています。訪問ヘルパーは介護職の中でも高齢で、「えんさんは若い人が多い」と言われますが、50人を超えるヘルパーの中で最も多いのは60代です。最近の60代70代は元気とはいえ、やはり少しずつ衰えてきます。せめてその分仕事を減らして長く働いてもらいたいと思っても、替わる人材がいないのです。このままでは、認知症や独居、老老世帯が激増するこれからピークを迎える超高齢社会にヘルパーがいなくなる、悪夢のようなことが起きてしまいます。

なぜこんなことになったのか。訪問介護は一軒ずつ訪問してケアを提供します。家電製品も醤油の置き場所も家事のこだわりも、それぞれ違うお宅に伺い、すべき仕事を時間内にする、状態観察を怠らない、プロの仕事です。生活を支える介護で「身体介護」と「生活援助」を厳密に線引きするのは難しい。それなのに「主婦なら誰でも出来る」と家事労働に対する偏見丸出しで、生活援助を追い詰めてきました。専門性を持ったヘルパーが適切に係わってきた方のインタビューは次ページをご覧ください。



皆さんにお願いがあります。この仕事につきたい方、是非手伝ってください。短時間でも、フルタイムでも、様々な働き方が可能です。連絡お待ちしております。

(代表理事／小島美里)